

展望 2026



2026年は国土強靱化実
施中期計画が始動し、建設投
資も増加する見通しを示され
ている。一方で合材の出荷量
は減少しており、資材・労務
費の上昇も続いている。今後

道路舗装

NIPPON

和田 千弘社長

合材工場・施工拠点を安定維持

も厳しい経営環境になるだろ
う。

昨年はインフラの老朽化に
起因したトラブルが多く発生
し、道路インフラを守る責任
を再認識した。そのためにも、

全国各地にある地域の製販子
会社を含む計151の合材工
場と地域の計200の施工拠
点をしっかりと維持・運用し
ていく。

協力会社との関係では、雇

用の安定と事業の継続性を確
保することが何よりも大切

だ。施工体制を安定的に確保
することに取り組むことがで
きる事業量を確保・創出して
いきたい。

技術開発や設備投資は今後
も省力化・省人化、そして二
酸化炭素(CO₂)排出量削
減に力を注ぐ。合材工場では
カーボンニュートラル(CN)

を進める。使用燃料の都市ガ
ス化や再生可能エネルギーで
製造したCNガスの使用に取
り組む。
グループ体制については、
グループ全体としての協力体
制をさらに強固にするため、
各社との情報共有を進める。
海外では、現地舗装会社
に出資しているタイとベトナム
で合材事業を展開中だ。特に
タイでは公共工事で再生合材
が使われるようになり、再生
合材の出荷可能な合材工場を
活用していく。



わだ ちひろ
NIPPO 和田 千弘 社長

責任胸にインフラへ貢献

——2025年の振り返りを
を改めて感じた」

「昨年は全国各地でインフラの

——26年の展望は

老朽化に起因したトラブルが多く

「事業環境に大きな変化はない

る」

——グループ連携は

発生した。豪雨・大雨や大規模地

「グループ内の各社との情報共

有を進め、グループ全体の力を高

に従事する女性社員も増えてお
り、特有の悩みを共有し、安心し
て働ける環境づくりに取り組んで
いる。他部署の女性社員とのコミ
ュニケーションを築く機会として
も開催する意義があり、今後も続
けていきたい」

震など自然災害も激甚・頻発化し

技術開発の方向性は

「タイとベトナムで現地舗装会

海外事業は

しており、被害を受けた際にはいち

「当社は、現場や世の中で必要

していく」

——協力会社との協力体制は

社に出資し、合材を中心とした事

早く道路の復旧に携わり、インフ

「協力会社が計画的に人を雇い、

業を展開している。タイでは公共

工事で再生合材が使われるように

ラの復旧に貢献しなければいけな

としている技術開発に注力してお

「再生技術を活用することが見

後、再生技術を活用することが見

責任胸にインフラへ貢献

「脱炭素への対応では、カーボ

事業を営めるようにすることが最

も大切だと考えている。NIPPO

ンニュートラルの実現に向けて、

Oグループが安定的に仕事を発注

すること、施工体制を確保する

工場の使用燃料の都市ガス化、中

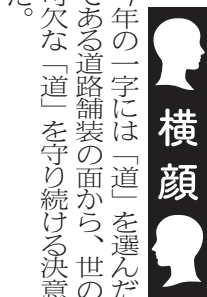
ことに取り組むことができる」

「女性社員働きがい向上研修」

温化合材の提供を進めているほ

を24年からスタートさせた。現場

めた。



今年の一文字には「道」を選んだ。本
業である道路舗装の面から、世の中
に不可欠な「道」を守り続ける決意を込
めた。